

ハムレットと父の亡霊

Hamlet and His Father's Ghost

白川 正男

SHIRAKAWA Masao

私は昭和 34 年(1959) 大学 4 年の春に、『ハムレット』の亡霊を演じた。東京教育大学(現筑波大学) 英文科公演で、シェイクスピアの原文で。ただし全幕ではなく、第一幕だけカット無しで。

外山滋比古先生から *Hamlet* や T.S. Eliot の評論など 3 年時に教わり、*Hamlet* 冒頭の 22 行をエリオットが絶賛していることも知って、仲間で原作を「本読み」してみようという、それがきっかけだった、らしい。

らしいというのは、その提案者は多分、同期の岡本靖正君と宗片邦義君で、担任はそれぞれ外山滋比古先生と斎藤美洲先生で、外山先生はシェイクスピア研究者で、斎藤先生は英国留学から帰られたばかりで、リチャード・バートンのハムレットなど、まるで口移しの如く朗読して見せられた。今から思えば二人ともシェイクスピア研究者になったのも当然か。私は担任は英語学の安井稔先生で、私は言語学専攻となり、その後、応用言語学研究でエセックス大学へ留学した。

そういうことで、3 年の秋ごろ始まった本読みから、上演しようじゃないかとなり、それで、第一幕だけとなった、と思う。

私が亡霊をやることになった理由は覚えていない。ここで白状しますが、実は 1985 年に失語症を患い、未だ回復せず、話は出来ず苦しんでいる次第。聞き取りはまずまず出来、健康ではあるが。

以上、何とか書きましたが、なぜこれを書く気になったか。

先日(11 月 12 日)、東京・KKR ホテルで英文科の同期会あり、座席の左隣りが宗片君で、彼が当時を懐かしんで話してくれた。なぜなら彼がハムレットで、私が彼の父、デンマーク王(の亡霊)だったから。彼の話を知っているうちに、せめて私が彼の父を演じたこと(王子ハムレットの父ハムレット王の亡霊)を書き留めておきたい、と思った(思わされた)という訳。

その他、思い出せるのは、会場は付属小学校の講堂で、公演は二日間、第一日目は吉田健一氏の話のあと、二日目は西脇順三郎氏の話のあと。無事に、シェイクスピアの原文を一語も間違えず、多分きれいな発音で、亡霊を演じきったこと、そしてその後、全員で記念撮影をした。

今から考えて、一番大事なことは、この時覚えた **Ghost** のセリフ、約 90 行が、その後、高校・大学での私の英語教育に、そして英文研究に、どれほど役立ったかしのれないということである。

以上、事情説明はこれまで。以下、私に関する第一幕の **Ghost** の箇所について記す。第一幕は 5 場までであるが、亡霊が登場するのは、1 場、(2 場は話題になっただけ)、4 場、5 場で、セリフは 80 数行ある。よくも覚えたものだ。懐かしい。以下、亡霊出現の場にかかわる箇所について、記憶の限り書き留める。

1 場。 (城の塔上で)

Marcellus What, has this thing appear'd again tonight?

(マーセラス：それで、例の物、今夜も現れたかい？)

Bernardo I have seen nothing. (バナード：いや、まだ何も見ていない。)

Mar. Horatio says 'tis but our fantasy, (マ：ホレイショは、我々の妄想だと言って、
And will not let belief take hold of him てんで信じようとししないのだ。

Touching this dreaded sight, twice seen of us 我々が二度までも見たあの恐ろしい姿の
ものを。)

X X X

やがて「亡霊」が現れる。頭の天辺から爪先まで、甲冑で身を固め、手には元帥の指揮杖を持っている。

Ber. Looks it not like the king? (バ：亡くなった王そのままの姿で。)

X X X

「亡霊」が、再び現れる。

X X X

雄鶏が鳴く。「亡霊」が消える。登場するが、セリフはない。

X X X

ホレイショ、マーセラス、バナード。

Horatio Let us impart what we have seen tonight (ホレ：王子ハムレットに
Unto young Hamlet; for, upon my life, お伝えしようではないか。
This spirit, dumb to us, will speak to him. あの亡霊はついに僕らには口をきかなかった
Do you consent we shall acquaint him with it? けれど、王子になら必ずや何か言うに
違いないから。賛成してくれるか。)

X X X

2 場。(城内) 亡霊は登場しないが、、、。

Hor. My lord, I think I saw him yesternight. (ホ：実は、殿下、昨夜、
お目にかかったように思えるのですが。)

Ham. Saw? Who? (ハム：お目にかかった？ 誰に？)

Hor. My lord, the king your father. (ホ：お父上に、先の国王に。)

Ham. The king my father! (ハム：国王に。わが父上に！)

x x x

Hor. Two nights together had these gentlemen, (ホ：二晩つづけて、
Marcellus and Bernardo, on their watch, この二人、マーセラスとバナード
In the dead and vast middle of the night, が見張りの最中、荒涼とした夜の
Been thus encounter'd. A figure like your father, さなかに、その不思議に出会ったのです。
お父上によく似た姿のものが―)

x x x

Hor. A countenance more in sorrow than in anger. (ホ：怒りよりは悲しみを帯びた顔
つきでした。)

x x x

4 場。(塔上)

ハムレット、ホレイショ、マーセラス。

(亡霊現れ、何も言わず、ハムレットを招く。)

x x x

5 場。 亡霊とハムレット。塔上のほかの場所。

Ghost. Mark me. (亡霊：よく聞くがよい。)

Ham. I will. (ハム：聞こう。)

Ghost. My hour is almost come, (亡霊：わしの時刻が迫っている。・・・)

x x x

Ghost. I am thy father's spirit, (亡霊：わしはそなたの父の亡霊。)

亡霊のセリフ、14 行、省略。

x x x

Ham. O God! (ハム：なに！何だと！)

Ghost. Revenge his foul and most unnatural murder (亡霊：非義非道な父の殺害
を復讐してくれ。)

Ham. Murder! (ハム：なに殺害！)

x x x

以下、約 85 行、省略。

Ghost. Adieu, adieu. Hamlet, remember me. (亡霊：さらば、さらば。ハムレット、
わしを忘れるな。)

以下、45 行ほど省略。

Ghost. [Beneath]] Swear! (亡霊：[地下から] 誓え。)
(ハムレット、ホレイショとマーセラスには、他言せぬと誓わせる)

Ham. Swear by my sword. (ハム：この剣にかけて誓え。)

Ghost. Swear! (亡霊：誓え。)

120 行ほど後、再び。

Ghost. Swear. (亡霊：誓え。)

Ham. Rest, rest, perturbed spirit! [They swear.] (ハム：安心するがよい、落ち着か
ぬ亡霊よ。[二人、誓う。])

以上。翻訳は岩波文庫を推薦します。

2018 年 12 月 10 日

白川正男、82 歳、元愛知県立大学教授